

JOMF 派遣医師便り (2014. 6)

◆ジャカルタ◆

ソフトボール部 AED 講習会

JJC 医療相談室

原 稔

JJC のソフトボール部には全 30 チーム 700 人以上が所属しています。20 代の若者から高齢者（？）までが一緒になり、1 部から 4 部に分かれてリーグ戦を戦います。場所はジャカルタ郊外のスンツール。ここに JJC の専用グラウンドがあり、各種スポーツに利用されています。ソフトボールであれば 4 面分の広さです。このスンツールで、2014 年の前期リーグが始まりました。

それに先立ち、AED 講習会を行いました。日本と比較し、ジャカルタの AED 普及率はゼロに等しい状況です。その中で、昨年スンツールのグラウンドに AED を設置しました。幸い、使用実績はまだありません。

当日は、各チームの代表者、30 名以上が集まり、2 部に分けて行いました。日本で行う時と内容は同じで、トレーニング用の人形を用いた型どおりのものですが、大きく違う点があります。AED から流れる音声は英語とインドネシア語なのです。英語ならまだしも、インドネシア語のアナウンスにはかなり戸惑います。救命処置の流れを理解した上で、アナウンスの内容を予想して行動する必要があります。

ポイントは「患者さんに触れないでください」という内容の部分を聞き落とさないことです。心電図波形の解析と、電気ショックを行う際に、このアナウンスが流れます。あとは心臓マッサージ（＋人工呼吸）を継続するのみです。

心筋梗塞等での突然死から命を救うには、その場に居合わせた人の救命処置がカギをにぎります。医療関係のインフラが十分でないインドネシアでは、一次救命処置の重要性が更に高まります。

今回、ソフトボール部から講習会実施の声が上がり、駐在員の意識の高さを感じました。